

田畑輪換をすすめる水稲無しろかき栽培

概要 Abstract

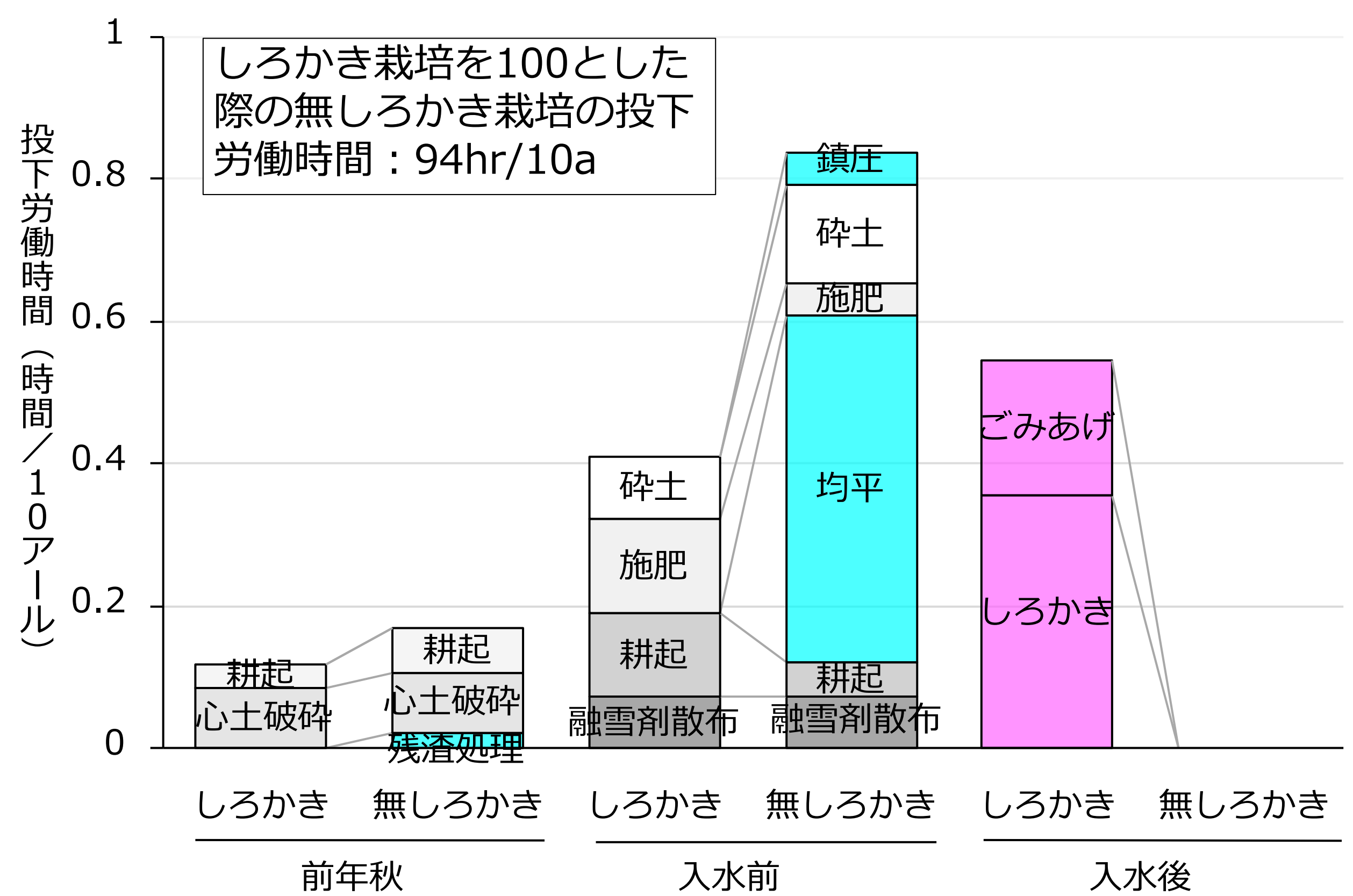
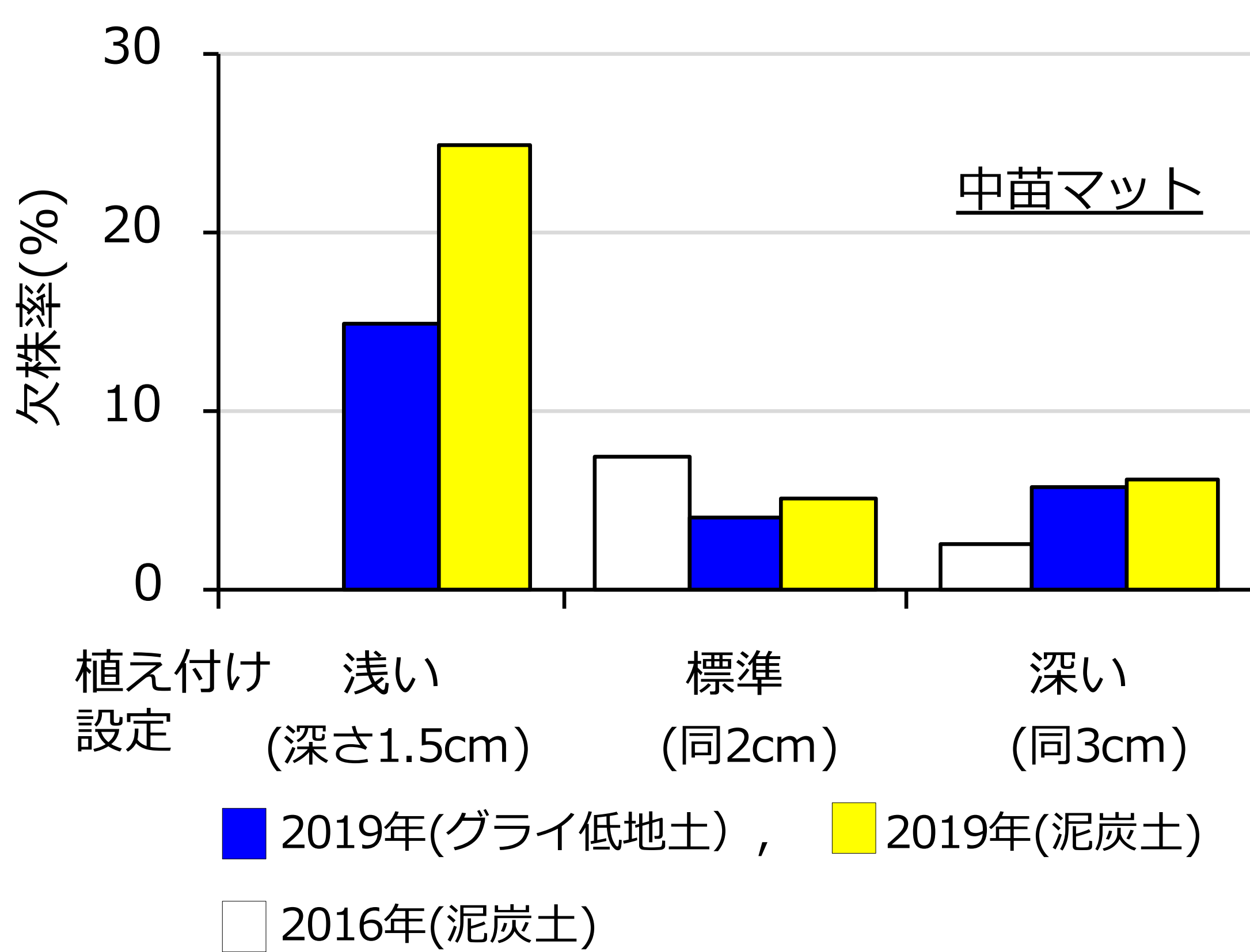
無しろかき栽培は浅植えになる傾向があるため、しろかき栽培よりも植え付け深さを深くすることで、欠株率が概ね10%以下に低減します。

前年が無しろかき栽培（復元田）の大豆は、前年しろかきに比べて土壌が膨軟となり、収量が増加する傾向にあります。

無しろかき栽培の労働ピークは入水後から入水前に移動し、しろかき栽培との併用で5月の労働ピークを分散できます。



成果 Results



前年の水稲履歴と大豆の収量等の関係

前年の水稲履歴	仮比重 (g/cm ³)	播種量 (kg/10a)	地上部乾物重 (kg/10a)	苗立ち本数 (株/m ²)	着莢数 (千個/10a)	粗子実重 (kg/10a)	百粒重 (g)
無しろかき	0.83	8.4	800	24.2	652	469(124)	37.5
しろかき	0.91	8.6	641	21.5	639	377(100)	33.1

- 1) 前年無しろかき3筆、前年しろかき5筆の各平均値
- 2) 供試品種「ユキホマレ」
- 3) 仮比重は大豆播種前の作土 (0~15cm) で調査

普及 Dissemination

- 1) 本成果は田畑輪換体系の水稲移植栽培に活用します。
- 2) 復元田の無代かき栽培では窒素を減肥します (北海道施肥ガイド2015)。
- 3) 本成果は「生研支援センター委託革新的技術開発・緊急展開事業 (うち経営体強化、地域戦略プロジェクト)」、「生研支援センター委託攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業」、「農水省委託戦略的プロジェクト研究推進事業 (うち多収阻害要因の診断法及び対策技術の開発)」で得られたものです。

連絡先 Contact

中央農業試験場
生産研究部 水田農業グループ
0126-26-2109
central-agri@hro.or.jp